

普及活動検討会実施報告書

気仙沼農業改良普及センター

実施月日：令和7年2月4日

実施場所：気仙沼合同庁舎

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	プロ課題 No. 1 「担い手を核とした地域農業の継続・発展」
2	プロ課題 No. 2 「枝もの用クロマツ栽培における若松の商品化率の向上」
3	プロ課題 No. 3 「生食用ぶどうのブランド化による生産拡大」

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市 町 村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロ課題 No. 1 「担い 手を核とし た地域農業 の継続・発 展」	4.7	・今すぐ結果の出る取組ではないので継続した支援を希望する。近隣の子供たちと一緒にあって農業をするような交流を期待します。 ・課題等を数値や文としてまとめることは大切だ。課題は色々出てくるが、まずは現場の気持ちや勢いを優先すべき。 ・地域農業の将来について2名の担い手に集積され、地域で合意形成が図られたことは評価できる。 ・高収益作物については獣害など思うようにいかない面もあったが、引き続きは場整備の要件を満たすよう取り組んでほしい。 ・担い手との会議など地域で初めて行う、よいプロジェクト課題だ。今後、必要機械や設備など規模に見合う導入支援をお願いする。	・今後も地域がまとまっていけるように支援を継続していきます。 ・課題等については、引き続き地元と話し合いを行いながら解決に向け支援していきます。 ・担い手への集約化や必要な機械・設備の導入についても規模に見合うように、さらに検討会で指摘のいただいた点についても協議・支援していきます。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロ課題 No. 2 「枝も の用クロマ ツ栽培にお ける若松の 商品化率の 向上」	4.5	・農薬適用拡大試験により来年適用されると良い。 ・生産者が一生懸命取り組もうとする志が伝わった。人の心をどのように動かすか、やる気を出させるか苦労もあったと思う。これからも収益増加を期待する。 ・現場の農業者に寄り添った活動だと感じた。 ・鳥獣被害で成長した苗を守るため、杉の造林をする際に使用する忌避剤を使用してはどうか。 ・当地域の新たな有力作物となるよう引き続き指導願いたい。自家育苗の成功を期待している。 ・県内初の取組であり、普及センターの情熱が伝わる。今後、栽培面積が拡大していくものと思うが、より細かい指導をお願いする。	・造林用の忌避剤について貴重な情報提供ありがとうございます。来年度の育苗で利用できないかパインプロに提案していきます。 ・新しく始める人たちがスムーズに出荷できるような仕組みを構築できるように検討いたします。 ・令和 7 年度から 3 か年計画で、引き続きクロマツ支援を継続する予定です。今後はパインプロだけではなく、新たな栽培者の掘り起こしも視野に入れて普及活動を展開していきます。
プロ課題 No. 3 「生食 用ぶどうの ブランド化 による生産 拡大」	4.8	・生育量が増加できたのは良い。来年度も頑張ってもらいたい。 ・地域の方の協力とチーム員の熱い思いによるブランド。果実で地域を盛り上げていただき感謝。剪定枝の炭化は他の果樹にも広がると良い。剪定枝は他の利用にも目を向けてはどうか。 ・剪定枝の炭化の取組は、県循環型社会推進課や保健所等関係部署へ確認するとよい。 ・課題は山積みだが、生産者の気持ちと勢いを大事にしてもらいたい。 ・販売会も大盛況となり、協議会会員もその成果に自信を持った。更なる生産拡大やブランド化、知名度アップに取り組んでほしい。 ・協議会の設立で一気にと組が進んだ。生産者・作付面積も増加し、生産者が見え、今後の方向性も検討しやすくなった。良い取組だ。	・更なる生産拡大やブランド力の向上に向けて、技術支援のほか、新規生産者の掘起こしや P R 活動等の支援を継続して行っていきます。 ・剪定枝の炭化に当たっては、注意点等について関係機関と十分協議を行いながら、環境負荷低減の取組強化や付加価値向上に向けて、協議会員への普及を図っていきます。
その他	—	・日頃から親身になった指導に感謝する。今後も市町と綿密に連携しながら、農業者の所得向上や担い手育成に取り組んでほしい。	・今後も関係機関・団体と綿密に連携しながら、計画的かつ効率的な普及活動を展開していきます。